

2 0 0 0

# 授業概要

【シラバス】

## 専攻科

〈保育専攻・福祉専攻〉

白梅学園短期大学

SHIRAYUME GAKUEN COLLEGE



## 目次 (専攻科)

### 保育専攻 (1年)

教育原論	3
幼児教育特論	4
教育課程論	5
保育内容研究 I	6
保育内容研究 II	7
保育内容研究 IV	8
音楽研究	9
図画工作研究	10
現代保育特論 I	11
保育健康学特論	12
乳児保育特論	13
障害児保育特論	14
専攻科実習特演 I	15
専攻科実習 I	16
総合演習研究 I	17
修了研究演習	18

### 保育専攻 (2年)

家族福祉特論	21
専攻科実習特演 II	22
専攻科実習 II	23
総合演習研究 II	24
修了研究演習	25

### 福祉専攻

老人福祉論	29
リハビリテーション論	30
老人・障害者の心理	31・32
家政学概論・家政学実習	33~35
介護概論	36
介護技術	37
形態別介護技術	38~42
医学一般	43
レクリエーション活動援助法	44
実習指導	45
介護実習	46
修了研究演習	47
社会福祉制度政策論	48
障害福祉論	49・50
社会福祉援助方法論	51



保育専攻（1年）



<b>【授業科目】</b> 教育原論	<b>【担当者】</b> 岡本富郎
<b>【開講期】</b> 1年 前期	
<b>【授業目標】</b> ○ 保育のあり方を、保育構造という視点で知ること。 ○ 自分の頭で考え、自分の言葉でしゃべること。	
<b>【テキスト・参考書】</b> ①『For the child—保育者養成を考える—』 ②「保育研究」(雑誌)の論文	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>保育の現状を知り、子どもにとって保育とは何なのかという哲学的な内容を取りあげて話す。「子どもと人生」「子どもの幸福」「子どもの存在理由」などである。</p> <p>そして、これらの内容と、保育自体のあり方を、「保育構造」という視点で関連づけて考えたい。その際に、構造とは何か、どのような構造論があるのかということを紹介し、分析する。</p> <p>討論と小レポートを課すので了解しておかれない。</p>	
<b>【評価方法】</b> レポート	

【授業科目】 幼児教育特論	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>わが国幼児教育の今日の課題を明らかにし、保育の歴史と多様な保育理論に学び、これからの保育のありかたを考えることを目標とする。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>資料を用意し、随時参考書を紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>1998年の暮れに幼稚園教育要領が改正され、昨年は保育所保育指針が改訂された。授業では保育の歴史をたどり、今日の子どもがおかれた状況と幼児教育の課題を明らかにする。</p> <p>この課題と取り組むこれからの保育を考えるため、近代における子どもの発見と生活教育・保育の思想の流れをルソー、ペスタロッチ、フレーベルに学び、19世紀の末から20世紀における子ども中心の教育思想と実践をデューイ、モンテッソーリ、そしてシュタイナーに見る。わが国では倉橋惣三の誘導保育論をとり上げる。</p> <p>全体を通じて保育における「子ども中心」の思想を子ども観および遊び、仕事、経験そして環境等の観点から学び、理解を深めることにしたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートおよび授業への出席と参加</p>	



【授業科目】 教育課程論	【担当者】 小川博久
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 保育という営みの中での保育者の役割を 中心に：幼思応作、現地構成・援助 の相互関係性を理論的に理解する	
【テキスト】 保育援助論	
【参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 保育という営みの基本的性格を「援助」という概念でとらえる</li> <li>② 保育という営みの基本的性格を「共生」という概念でとらえる</li> <li>③ 保育という営みの基本的性格を「現地」という概念でとらえる</li> <li>④ 保育という営みの基本的性格を「計画」という概念でとらえる</li> <li>⑤ 保育者の役割を幼思応作・現地構成・援助という三つの要素の相互関係でとらえる</li> </ol>	
【評価方法】 レポート	

【授業科目】 保育内容研究Ⅰ	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児の身体運動を中心とした表現の発達および幼児の身体表現力の発達をふまえ、保育者は、子どもとの関わりの中で、子どもたちが、①感受性が豊かになる、②豊かに表現する、③表現を楽しむにはどのような援助、働きかけをすべきか、その指導方法について学ぶ。特に言葉がけについて演習形式で詳しく学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>(1) 総論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①身体表現やリズムカルに身体を動かす等の幼児教育における現状と問題点</li> <li>②保育現場でみられる身体表現</li> <li>③身体表現の教育的意義</li> <li>④指導の実践例</li> </ul> <p>(2) 身体表現力の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①保育園の3歳未満児クラスに見られる身体表現とその変化</li> <li>②身体表現活動にみられる身体表現力の発達(3歳児、4歳児、5歳児)</li> </ul> <p>(3) 身体表現の指導法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ねらい ②援助の基本的姿勢 ③援助の方法 ④言葉がけ</li> </ul> <p>(4) 身体表現の援助における言葉がけの研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①指導実践例における言葉がけの分析と整理</li> <li>②言葉がけのありかた</li> <li>③いろいろな題材からの身体表現の模擬指導と言葉がけの検討</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義の一部、対話形式や演習形式で進める中、積極的な発言を期待する。これらを平常点とし、さらに最後に与えた課題について各自の考えを記述してもらう。</p>	

【授業科目】 保育内容研究Ⅱ	【担当者】 近藤正樹				
【開講期】 1 年 後期					
<p>【授業目標】 幼児教育法の各論“認識教育法”に焦点をあてて、哲学・生理学・心理学・教育学におよぶ学際教科“認識”学を収めている。私流に言えば“input教育法の概論 自然事象の認識のために”ということになる。また認知科学とコンピューターモデルにも言及する。</p> <p>研究法の一助にもなるよう配慮してある。</p>					
<p>【テキスト】 中沢和子著「新版 幼児の科学教育」国土社 (その他プリントを配布する)</p>					
<p>【参考書】 時実利彦著「目で見る脳」 水野寿彦著「幼児の生活と自然」 敬学研究社</p>					
<p>授 業 計 画</p>					
<p>幼児教育法各論をどう考えるか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正しい認識を豊かに身につける教育法 (inputの教育について)</li> <li>2. 自分自身の知的財産を豊かに、効果的に表現できるようにする教育法 (outputの教育について)</li> <li>3. 望ましい生活習慣を身につけ、おとなの社会に適応させる教育法 (adaptationの教育について)</li> <li>4. 自然認識・社会認識・文化認識というサブ・ジャンルの特質</li> </ol> <p>“認識”とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育学における terminology (専門用語と生活用語)</li> <li>2. 用語の正しい理解のしかた (外国語との比較のすすめ)</li> </ol> <p>“認識”を理解するための生理学 ① 神経細胞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境のリセプター</li> <li>2. 受容器の構造と機能</li> <li>3. 神経細胞の構造と機能</li> </ol> <p>“認識”を理解するための生理学 ② 神経系と脳</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 神経系と神経節・脳の関係</li> <li>5. 脳の構造と機能の分化</li> <li>6. 生理学的原因による認識不全の現象</li> </ol> <p>“認識”を理解するための心理学</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レンズ眼による倒立像と正立像とみなす適応</li> <li>2. 残像と編集</li> <li>3. 錯覚と先入観</li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. イメージと記号のファイリング</li> <li>5. 夢とファイルと発想</li> <li>6. “認識”のモデルとコンピューター</li> </ol> </td> </tr> </table> <p>“思考”を考えるモデル</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中沢和子著「新版 幼児の科学教育」の分析</li> <li>2. 中沢和子氏の“思考のプロセス”のモデル</li> <li>3. “思考”モデルとコンピューターのアナロジー</li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. コンピューター理論の現状と未来</li> <li>5. “認識”と“思考”の教育学的整合</li> <li>6. “知・情・意”の認識学的説明</li> </ol> </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レンズ眼による倒立像と正立像とみなす適応</li> <li>2. 残像と編集</li> <li>3. 錯覚と先入観</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. イメージと記号のファイリング</li> <li>5. 夢とファイルと発想</li> <li>6. “認識”のモデルとコンピューター</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中沢和子著「新版 幼児の科学教育」の分析</li> <li>2. 中沢和子氏の“思考のプロセス”のモデル</li> <li>3. “思考”モデルとコンピューターのアナロジー</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. コンピューター理論の現状と未来</li> <li>5. “認識”と“思考”の教育学的整合</li> <li>6. “知・情・意”の認識学的説明</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レンズ眼による倒立像と正立像とみなす適応</li> <li>2. 残像と編集</li> <li>3. 錯覚と先入観</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. イメージと記号のファイリング</li> <li>5. 夢とファイルと発想</li> <li>6. “認識”のモデルとコンピューター</li> </ol>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中沢和子著「新版 幼児の科学教育」の分析</li> <li>2. 中沢和子氏の“思考のプロセス”のモデル</li> <li>3. “思考”モデルとコンピューターのアナロジー</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. コンピューター理論の現状と未来</li> <li>5. “認識”と“思考”の教育学的整合</li> <li>6. “知・情・意”の認識学的説明</li> </ol>				
<p>【評価方法】 時間中に提出するレポート、と期末試験による。</p>					

【授業科目名】 保育内容研究Ⅳ	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 保育所保育指針や幼稚園教育要領では「環境を通して行う保育」が特筆されており、そのなかで環境としての人間関係は重要な位置を占める。また、保育指針や教育要領では領域として「人間関係」がとりあげられている。本講では、子どもが育つ環境としての「人間関係」と、育ちのねらいの内容としての「人間関係」の二つを一つのものとして捉え、とくに集団生活に注目しながら考えていく。社会的存在としての人間・子どもの生活拠点としての人間関係のあり様を検討する</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの育ちにとって必要な「人間関係」とは何か</li> <li>2. 人と人との関わりをもつ意味</li> <li>3. 集団生活のなかでの子どもの生活</li> <li>4. 集団生活の展開過程</li> <li>5. 集団生活を支える社会規範</li> <li>6. 集団生活を支える文化</li> <li>7. 子どもの集団生活と保育者の役割</li> <li>8. 人間関係の発展と保育カリキュラム</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート並びに平常点</p>	

<p>[授業科目名] 「音楽研究」</p>	<p>[担当者] 秋山治子</p>
<p>[開講時期] 1年 前期</p>	
<p>[授業目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児の音楽的能力について更に理解を深める</li> <li>2 ピアノによる伴奏付けを学ぶ</li> <li>3 保育者として身に付けるべき音楽的表現力について話し合い学ぶ</li> </ol>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>伴奏法の教科書を授業開始時に指定する</p>	
<p>[授業計画]</p> <p>授業は、次の2つの柱に沿って進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 伴奏法の基礎と応用を実践する</li> <li>2 幼児曲を皆でうたい、曲についての感想を出し合いながらすすめる</li> <li>3 歌と楽器に関する幼児の音楽能力について実践を通して理解していく</li> </ol>	
<p>[評価]</p> <p>平常点、レポート</p>	

【授業科目名】 図画工作研究	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの造形表現活動の援助について、具体的な実践事例をもとにして学びます。</p> <p>特に、豊かな造形表現を実現するための環境づくりと援助のあり方について考察します。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>◆以下のテーマについて、授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの造形表現活動を豊かにしていくための環境づくりについて。</li> <li>2. 子どもの造形表現活動を保育者として、どう受けとめ、どう働きかけるか、について。</li> <li>3. 以上の視点について、実際の保育現場での実践事例を検討材料にして、援助指導のあり方について分析考察をしていきます。</li> </ol> <p>(実際に保育現場へ行ったり、保育現場からのVTRや作品などの具体的な実践資料を活用していきます)</p> <p>*各授業の中で、レポート報告や話し合いなどの実践検討を行なっていきます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業で学んだ内容を一冊のノート (orファイル) にまとめて提出</p>	

【授業科目名】 現代保育特論 I	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 都市化、核家族化・少子化、女性（とくに母親）の社会進出の増大 価値観の多様化など社会のはげしい動きのなかで保育ニーズは多様化 し、さまざまな保育のあり方が求められている。さらに、児童福祉法 の改正をもととする制度変革期にあつて、保育行政からの課題も少な くない。家族や地域社会の保育ニーズにどう応えるか、そのための専 門性をいかに習得していくか、主として保育園に例をとりつつも幼稚 園にも共通のテーマとして捉えていく。	
【テキスト・参考書】  講義中に適宜指示する	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもをとりまく社会の動き</li> <li>2. 保育をとりまく社会の動き (1)都市化</li> <li>3. 保育をとりまく社会の動き (2)核家族化</li> <li>4. 保育をとりまく社会の動き (3)少子化</li> <li>5. 保育をとりまく社会の動き (4)女性の社会進出の増大</li> <li>6. 保育をとりまく社会の動き (5)価値観の多様化</li> <li>7. 保育制度の改変と保育園 (1)保育行政の変化</li> <li>8. 保育制度の改変と保育園 (2)保育園機能の変化</li> </ol>	
【評価方法】  レポート並びに平常点	

【授業科目名】 保育健康学特論	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1、日常の保育活動の中で遭遇するさまざまな子どもの健康問題や健康保育の実践について、具体的に理解する。</p> <p>2、子どもの健康問題や保健活動に対する見方や考え方について理解を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書（月刊誌） 毛利子来・山田真編集代表：ちいさい・おおきい・よわいつよい、 ジャパンマシニスト社</p>	
授 業 計 画	
<p>保育健康学特講は、保育実践における諸問題を健康学（健康の維持増進と疾病予防の学問）的に検討することを目的とする。その講義内容は、大きく分けて、子どもの保健管理（主体管理、環境管理、生活行動管理）、保健教育、保育者の健康管理の3領域からなる。</p> <p>今日、健康対策において「ヘルスプロモーション」という概念が強調され、仲間とともに自らのからだや健康をまもり育てることのできる人間、そして健康的な環境と状況を創りだしていける人間が求められている。そこで、保育実践に関わる健康問題を検討するためのアプローチと視点は、教育学的、行動科学的な手法を重視する。</p> <p>主なテーマ 予防接種はどれを、どう受けますか 健康診断で何が分かるの おやつ、お菓子はむずかしい 肥満は病気のもと？ 子どもたちに何を食べさせたらいい？ けが、誤飲、転落 育児に除菌は必要ないの 知りたい食中毒と伝染病 知りたいインフルエンザ 注意欠陥・多動性障害（ADHD） 乳幼児突然死症候群（SIDS）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート、学習に対する意欲と努力</p>	



【授業科目】 乳児保育特論	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育における現状と課題を明らかにするとともに、今日、焦点となっている理論的、実践的問題を取り上げ、乳児保育についての理解を深める。また、子どもの育ちを保障する保育、親への援助のあり方を実践的に追求する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に、指示する</p> <hr/> <p>【参考書】</p> <p>授業時に紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>概ね、以下の内容で授業を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児の発達と保育実践 <ol style="list-style-type: none"> <li>①発達研究、実践研究が明らかにした乳児の発達と保育</li> <li>②乳児を保育実践についての各自の課題をもとに、実践検討を行う</li> </ol> </li> <li>2. 乳児保育の保育内容・方法に影響を与えている理論の検討 母子関係論、アタッチメント研究と乳児保育</li> <li>3. 乳児保育をめぐる状況と問題 <ol style="list-style-type: none"> <li>①乳児保育ニーズの増大と保育所</li> <li>②乳児の長時間保育</li> <li>③今日の子育てと乳児保育</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①平常授業でのレポート、討議への参加</li> <li>②学期末レポート</li> </ol>	

【授業科目】 障害児保育特論	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 1 年 前 期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児の行動特徴や発達を踏まえた上で、一人ひとりの発達援助の実際や保育実践について、ケースカンファレンス通して学ぶ。</li> <li>2. 保育所・幼稚園における障害児保育の実践について、行動観察や遊び参加を行い、子どもの発達理解と援助に関する専門性を深める。</li> <li>3. 障害児地域支援事業における関連機関や連携システムについて、実践を見ながら考える。</li> </ol>	
<p>【テキスト】【参考書】</p> <p>授業の中で、適宜、提示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>授業内容は主に、障害児の発達や行動特徴の理解について、基本を押さえながらも、実践報告や文献を読みながらさらに深めていく。</p> <p>また、実際に障害児保育の実践を行動観察や参加観察を通して体験し、その観察結果をもとにケースカンファレンスを進めていく。</p> <p>この時、これまで学習してきた発達心理学の知識を使いながら進めるので、基本を復習しておくこと。授業では実践資料やVTRを使用し、具体性、実践性を伴った学習を行う。</p> <p>およそ、以下の項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児保育に関する基本的理解 (主に、実践報告を読みながら深める)       <ol style="list-style-type: none"> <li>①インテグレーションとインクルージョン           <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いっしょの保育」における療育的視点と社会教育的視点から</li> </ul> </li> <li>②障害の特徴と発達の理解           <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別な発達ニーズをもつ子どもたち」の理解</li> <li>・発達遅滞(知的障害)、自閉性障害の発達特徴と保育実践</li> <li>・学習障害(特異性発達障害)の発達特徴と保育実践</li> <li>・注意欠陥／多動症候群(ADHD)の発達特徴と保育実践</li> <li>・運動障害の発達特徴と保育実践</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>2. 障害児保育の実践とケースカンファレンス       <ol style="list-style-type: none"> <li>①障害児あるいは「発達が気になる子」の遊び参加観察・行動観察           <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に、「保育・幼稚園にでかけ行動観察」を行う、あるいは「遊びの会」のなかで遊び援助および参加観察を行う。</li> </ul> </li> <li>②これをもとに、ケースカンファレンスを進める。</li> </ol> </li> <li>3. 家族とともに地域で生きることを支援する(実際に、当事者の話を聞く場を設定する)       <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活援助のシステムについて</li> <li>・学童保育の実際</li> <li>・レスパイトサービス他、支援サービスの実際</li> <li>・専門的機関との連携と相談活動の実際</li> </ul> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業の中でレポート、ケースカンファレンスの内容を評価する</p>	

【授業科目】 専攻科実習特演 I	【担当者】 師岡 章
【開講期】 1 年 後 期	
<b>【授業目標】</b> ① 専攻科実習の意義について知ること。 ② 実習内容について知ること。 ③ 実習テーマについて討論し、決定すること。 ④ 実習内容について分析し、まとめること。	
<b>【テキスト】</b> 岸井勇雄・栃尾勲編『教育・保育実習』チャイルド本社、2000年	
<b>【参考書】</b> 授業時に適宜、紹介する。	
<b>授 業 計 画</b>	
① 専攻科実習について、その意義と、位置づけについて話す。 ② 実習内容について話す。 ③ 各自の実習内容について報告し、討論する。(1) ④ 同上 (2) ⑤ 同上 (3) ⑥ 実習内容についての分析、討論。(1) ⑦ 同上 (2) ⑧ 同上 (3) ⑨ 同上 (4) ⑩ 同上 (5) ⑪ 実習全体のまとめ。(1) ⑫ 同上 (2) <div style="margin-left: 400px;">           } 各自の実習をビデオに撮り、それを見ながら、分析する。            } 実習記録を作成するための、討論とまとめ         </div>	
<b>【評価方法】</b> 平常点とレポート	

【授業科目】 専攻科実習 I	【担当者】 師岡章
【開講期】 1 年後期	
<b>【授業目標】</b> ① 「専攻科実習特演 I」で学んだ実習内容を基にして実習を行う。 ② 各自が決めた「実習テーマ」に基づいて実習を行う。 ③ ビデオを撮る。	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
<b>授 業 計 画</b>	
① 各自、より質の高い保育者をめざして、主体的に実習に取り組む。 ② 実習中の 2 週目の土曜日に、学内で、実習途中の反省会を行う。 ③ 「指導計画案」を立て、指導実習を実施する。 ④ ビデオ撮影をする。	
<b>【評価方法】</b> 平常点、実習記録、反省会などを総合して評価	

【授業科目】 総合演習研究 I	【担当者】 近藤正樹・民秋 言
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】 近頃の社会的問題として児童虐待とか“いじめ”とか不登校とか色々な話題がふえてきた。これらは子ども間ばかりではなく、おとな間やおとなと子どもの関係、すなわちヒトとヒトとの関係が歪んでいること、不自然になってきたことと指摘されている。本講では、社会的、自然科学的な考察のしかたを提示しながら、“集団の理解”という副題のもとに演習と講義を展開する。</p>	
【テキスト】 テキストは使用しない。	
<p>-----</p> <p>【参考書】 各項目ごとにそのつど紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>“集団の理解”</p> <p>    <b>集団の哲学的理解</b></p> <p>        集団とは何か。    ヒトの集団(社会)の特性    (月……民秋) 水……近藤)</p> <p>    <b>集団の生物学的(行動学的)理解</b>    (水……近藤)</p> <p>        集団行動の比較と進化</p> <p>        集団構成の秩序</p> <p>        集団にみられる性(性質・傾向)と制(形式・システム)</p> <p>    <b>集団の社会的理解</b>    (月……民秋)</p> <p>        家族と友人とその他の人びと</p> <p>        集団の機能</p> <p>        集団を保持するための規範</p> <p>        役割構造と権威構造</p> <p>    <b>集団の教育効果</b>    (月……民秋)</p> <p>    <b>集団の特性の抽象的把握</b>    (水……近藤)</p> <p>        集団理解上の技術(統計法を含む)</p> <p>        集団特性の検証</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>    宿題の発表状況と期末試験による</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試み、論文にまとめる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総合演習研究Ⅰの学習を踏まえ、学生がテーマを決める。</li> <li>2. テーマによって、担当教員を決定する</li> <li>3. 担当教員の指導を受けながら、研究作業を進める。</li> <li>4. 修了研究論文をまとめ、提出する。</li> </ol>	
【評価方法】	

保育専攻（2年）





【授業科目】 家族福祉特論

【担当者】 吉澤英子

【開講期】 2年 前期

【授業目標】

家族関係の希薄化による諸問題が指摘される今日、事例に基づいた状況分析を試みその把握をする。その上で具体的対応のための用いる方法を用いての解決を模索、考究する。  
(各授業は、グループディスカッションによる展開をほめる。)

【テキスト】

特に使用しない

【参考書】

必要に応じて紹介する

授 業 計 画

1. 反世、今「家族福祉」が、— 家族福祉の意味するもの—
  2. 「家族」と「家庭」の概念とよめる諸課題
  3. 家族関係その1、— 夫婦関係を中心に、
  4. 家族関係その2 — 親子関係を中心に
  5. 家族関係その3 — その他の状況
  6. 家族福祉の範囲 1 — 所得保障
  7. 家族福祉の範囲 2 — 子どもの健全育成
  8. 家族福祉の範囲 3 — 生活文化創造
  9. 家族周期と家族福祉サービスの課題
  10. 家族サービスに関連する諸福祉関連制度
  11. 家族福祉の具体的な展開方法 1
  12. 家族福祉の具体的な展開方法 2
  13. 家族福祉の具体的な展開方法 3
  14. 家族福祉の発展過程
  15. まとめ
- } V-2447-7

【評価方法】

1. 各授業のグループディスカッションへの参加状況 (自らの見解発表による)
2. 授業の後に(何回かの)レポート記述を提出による

【授業科目】 専攻科実習特演 II	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 週 2 日の実習の在り方について知ること。</li> <li>② 各自の「実習テーマ」について報告し、学び合うこと。</li> <li>③ 毎週、実習内容について分析し、学び合うこと。</li> <li>④ 実習終了後、全体の分析とまとめをすること。</li> </ul>	
【テキスト】	
-----	
【参考書】	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実習の意義と内容について話す。</li> <li>② 各自の「実習テーマ」について報告し、学び合う。</li> <li>③ 具体的な観察の方法について学び合う。(1)</li> <li>④ 同上 (2) (以上が実習前の内容。以下は実習中と、終了後の内容。)</li> <li>① 毎週、実習内容について分析し、討論する。</li> <li>② 実習終了後、全体で、実習内容の分析とまとめをする。</li> <li>③ 実習記録の小冊子を作成するまとめと作業をする。</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とレポート</p>	

【授業科目】 専攻科実習 II	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「専攻科実習特演II」で学んだことを元にして、実習に取り組む。</p>	
【テキスト】	
<p>.....</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>① 質の高い保育者をめざして、総合的な実践能力を高めるために、多様な視点を持って観察し、体験をする。</p> <p>② 指導計画案を立て、可能な限り、指導実習を体験させて戴く。</p> <p>③ より、実技的に高度な実践能力を身につけるための体験をする。</p>	
【評価方法】	

【授業科目】 総合演習研究Ⅱ	【担当者】 鈴木佐喜子・民秋 言
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この科目は、「総合演習研究Ⅰ」の成果を土台として、保育者として、一層高度な資質を養い、実践的な力量を高めることを目標とする。</p>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>この科目では、より高い実践的な力量、指導力を高めるために、位置づけ、ディスカッション、実地体験、調査等の方法を用いて演習的に行う。</p> <p>「総合演習研究Ⅰ」の課題「人間尊重・人権尊重」「少子化問題」「多様な保育ニーズ」「異文化理解」「社会への男女共同参画」等を取り上げ、幼稚園教育・保育の場においてどのように実現していくのか、指導方法や保育内容等、実践的に検討する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・授業における討論への参加状況・レポート</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試み、論文にまとめる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総合演習研究Ⅰの学習を踏まえ、学生がテーマを決める。</li> <li>2. テーマによって、担当教員を決定する</li> <li>3. 担当教員の指導を受けながら、研究作業を進める。</li> <li>4. 修了研究論文をまとめ、提出する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への参加状況および修了研究論文により評価する</p>	



福祉専攻





【授業科目】 老人福祉論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科 福祉専攻 前期・後期	
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>前期は、老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを授業目標に進め、後期はケアのあり方など実践に即して学習していきます。また、介護保険をはじめ老人福祉制度については、前期実習前にその初歩を、本格的学習は後期の課題とします。</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老人福祉の社会的背景について学ぶ。</li> <li>2. 老人福祉の理念・目的を学ぶ。</li> <li>3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学ぶ。</li> <li>4. 介護保険制度をはじめ、現行および今後の老人福祉、老人保健の政策、制度について学ぶ。</li> <li>5. 老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続き、具体的実践活動を学ぶ。</li> <li>6. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学び、ケアの在り方について考える。</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の人権を守るケアの在り方について学ぶ。</li> <li>2. 在宅福祉への取り組み方、および地域社会との連携の意義と方法について学ぶ。</li> <li>3. 家族やボランティアとの関わる意義と方法について学ぶ。</li> <li>4. 施設運営の円滑化について学び、他業種との連携の意義と方法について学ぶ。</li> <li>5. 福祉労働の在り方について学ぶ。</li> </ol>	
<p><b>【参考図書】</b></p> <p>「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣)</p> <p>その他、授業中に適宜紹介します。また、参考論文はコピーして授業で使います。</p>	
<p><b>【授業の進め方】</b></p> <p>授業は、上記授業目標を具体化し、プリントを中心に進めます。また、ビデオも活用します</p>	
<p><b>【評価の方法】</b></p> <p>授業は、定時に始めます。</p> <p>最初の5分間で、その日の授業について考えることをミニレポートで書き、それで出席確認します。授業の合間になるべく小グループによる話し合いを取り入れ、最後の7分間で自分自身の授業のまとめレポートを書きます。</p> <p>また、定期試験は、レポートとします。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。</p> <p>評価は、平常点（遅刻、欠席、ミニレポート提出状況等）30%、試験（レポート）70%で、その総合点で評価します。</p>	

【授業科目】 リハビリテーション論	【担当者】 八重田 淳
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>心身に障害をもつ人をはじめ、様々な社会的ハンディキャップをもつ人々に対するリハビリテーションの基本原則、プロセス、自立支援の方法、社会生活能力とQOLの向上を目指した援助のあり方について学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】 リハビリテーションの理念と実践～21世紀へのメッセージ～          日本障害者リハビリテーション協会 総合リハビリテーション研究大会常任委員会編集 エンパワメント          研究所発行、筒井書房発売、1997年発行、定価2,800円</p>	
<p>【参考書】 リハビリテーションの理論と実際 上田敏編、セミナー介護福祉、ミネルヴァ書房、1996          年発行、定価2,600円</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>原則として、以下の講義内容に沿って講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションと福祉</li> <li>2. リハビリテーション医学</li> <li>3. リハビリテーションカウンセリング心理学</li> <li>4. 諸外国におけるリハビリテーション実践</li> <li>5. 我が国におけるリハビリテーション実践</li> <li>6. リハビリテーション関連政策の国際比較</li> <li>7. 身体障害者のリハビリテーション</li> <li>8. 知的障害者のリハビリテーション</li> <li>9. 精神障害者のリハビリテーション</li> <li>10. 児童のリハビリテーションと障害児教育</li> <li>11. 高齢者のリハビリテーションと介護</li> <li>12. リハビリテーション工学と環境整備</li> <li>13. 職業リハビリテーション</li> <li>14. 社会リハビリテーション</li> <li>15. 総合リハビリテーションによる連携</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業態度を含む出席状況、授業時間内で行う課題の達成度、筆記試験により、総合的に評価する。</p>	

【授業科目】 老人・障害者の心理	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 1 年 後 期	
<b>【授業目標】</b> 1. 障害者の心理的特性を踏まえた上で、福祉援助者としての援助の技法や実際について学ぶ。 2. 今後の障害福祉の動向からみた援助者としての課題について考える。	
<b>【テキスト】【参考書】</b> 授業になかで配布するプリント・テキストを中心に進める。 授業の中で、適宜、紹介する。	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>以下のような内容について、資料・ビデオを使用しながら進める。  適宜、授業の中で、レポート課題を提示するので、新聞、ニュースなどの情報について、各自の関心のあるところを事前に準備しておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者の心理を理解する視点</li> <li>2. 障害の種類と心理的特性(特に、以下の障害について学ぶ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害と心理特性</li> <li>・コミュニケーションの障害と心理的特性</li> <li>・精神の障害と心理的特性</li> </ul> </li> <li>3. 障害者の心理的問題を理解する技法(特に、以下の技法について学ぶ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・面接・相談技法</li> <li>・心理療法</li> </ul> </li> <li>4. 障害の受容に向けての援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の受容に向けての援助</li> <li>・障害の受容へ向けての援助の実際</li> <li>・障害の受容と家族</li> </ul> </li> <li>5. 環境とのかかわりのなかでの心理的援助(各自のレポートを踏まえて進める) <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的環境と障害者援助</li> <li>・物的環境と障害者援助</li> <li>・社会環境と障害者援助</li> </ul> </li> <li>6. 現在の障害者福祉の動向と求められる援助者の理解  (各自のレポートを踏まえて進める) <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の自己決定権とアクセス権の保障権利擁護</li> <li>・各自のレポート報告</li> </ul> </li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> ①授業のなかでの小テスト ②出席点 での総合評価	

【授業科目】 老人・障害者の心理	【担当者】 高山 緑
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>本講義のねらいは老年期の心理を理解することである。年齢をとれば誰にでも起きる正常な加齢と、病気などが原因で起きる病的な加齢とを区別して、現実におこっている加齢(老化)を偏見なく理解できるようにする。また、生涯発達の枠組みの中で、老年期の発達を学んでゆく。</p>	
【テキスト】	
<p>【参考書】 下仲順子(編) 老年心理学 培風館 西村純一(著) 成人発達の心理学 酒井書店</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 老年心理学の歴史・高齢化社会のもたらしたもの 高齢者の心理を学ぶにあたり、老化や老年期などの概念と理論、老年心理学の歴史、高齢化社会の現状などについて学ぶ。</li> <li>2 高齢期の疾患と身体・生理機能の老化 高齢期におこりやすい身体疾患、視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚などの感覚機能の発達と老化、および運動機能の老化などについて学ぶ。</li> <li>3 高齢者の記憶 記憶の加齢変化の特徴について学び、記憶の低下による失敗を少なくするにはどうしたらよいか、考える。</li> <li>4 高齢期の知能・創造性・知恵 生涯を通じて知能はどのように発達するのか、生涯発達の視点にたって理解する。また高齢期の創造性、知恵にいても学んでゆく。</li> <li>5 人格と加齢・高齢期の適応 人格が成人期以降、どのような発達・変化をするのか生涯発達の視点にたって理解する。</li> <li>6 死と死にゆく過程 死にゆくプロセスについて学び、人間として尊厳に満ちた死を迎えるにはどうしたらよいか、また残された人々のところをどのように理解したらよいかについて考える。</li> <li>7 高齢期の家族と対人関係 高齢期の家族関係、対人関係について、モデルや研究成果をふまえながら理解する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義への取り組み方・レポート等から総合的に評価する</p>	

【授業科目】 家政学概論・家政学実習	【担当者】 安倍 澄子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>家族と家庭生活の運営・管理に関する基礎的知識・事項と、生活運営や生活様式に影響を与える住生活領域に関する基礎知識・事項を学習し、家事労働・介護援助のあり方と介護援助を生活自立・維持側面と、地域社会との関わりをもふまえ、その社会的役割についても考察する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>宮崎礼子編 「家政学概論」 誠新書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>宮村光重・倉野精三編 「家族の変化と生活経済」 朝倉書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>今日の高齢化社会といわれている現状を家族の変化とあわせて概観し、家庭生活にもたらされている変化や多様な影響について把握する。さらに、地域社会、とりわけ居住環境との関連からもその影響について検討を加える。</p> <p>これらから、家事・介護援助に携わる者として、家族の多様なあり方への理解と、個々人の生活の仕方や家族観・生活観が世代によって異なっていることへの洞察力を養うようにする。</p> <p>そこで、授業では、家族の変化と家庭生活についての社会的視点と生活史的視点をもって把握できるように配慮し、あわせて住まい方や地域社会の居住環境との関連からも、介護援助のあり方を考察できるようにし、家事・介護援助者としての実践力を培う一助としたい。</p> <p>授業で取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族・家庭生活の現状と変遷</li> <li>2. ライフサイクル・家族周期の変化と生活設計の課題</li> <li>3. 生活時間論</li> <li>4. 家事労働論</li> <li>5. 生活経済（家計費論）、高齢者・障害者と消費者問題</li> <li>6. 住まい方と居住環境</li> <li>7. 住宅改善の視点とその効果</li> <li>8. 高齢者・障害者と住政策</li> </ol> <p>なお、実習では、家計費分析、生活時間調査分析から生活実態把握の手法を習得し、問題点の考察を行う。また、住宅安全チェック、バリアフリーに関する体験学習などを行う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと授業や実習時における取り組みの姿勢から、総合的に評価する</p>	

【授業科目】 家政学概論・家政学実習	【担当者】 山本良子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>生活基盤をなす、家政学の概要を被服生活の分野について、必要な基礎知識を概説し、介護者として高齢者や障害者の衣料品について実践の場に役立てられるように問題点を考え、実習では、衣服の調整ならびに管理に必要な実際を理解することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>宮崎礼子編 家政学概論 誠信書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>中島満喜子・駒津君代・土橋とき子共著 寮母・ヘルパーの家政学①被服 (全国社会福祉協議会)</p>	
授 業 計 画	
<p>被服生活について、下記の項目について概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 被服の役割と機能       <ol style="list-style-type: none"> <li>①被服着用の目的 ②被服の機能</li> </ol> </li> <li>2) 被服の素材と品質表示       <ol style="list-style-type: none"> <li>①被服の素材の種類と性能 ②被服素材の加工</li> <li>③被服素材の品質表示</li> </ol> </li> <li>3) 被服と保健衛生       <ol style="list-style-type: none"> <li>①被服と体温調節 ②汚れと被服 ③衣料障害</li> </ol> </li> <li>4) 被服の選択と管理 (寝具類を含む)       <ol style="list-style-type: none"> <li>①被服の選択 ②被服の管理</li> </ol> </li> <li>5) 高齢者、障害者と被服       <ol style="list-style-type: none"> <li>①高齢者の被服 ②障害者の被服</li> </ol> </li> </ol> <p>以上をもとに特に高齢者、障害者の最適衣料品のありかたについて考える。</p> <p>実習では、素材の簡単な鑑別の仕方、取り扱い方法、被服の縫製の基礎と応用について行う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート・平常点</p>	

【授業科目】 家政学概論・家政学実習	【担当者】 関 真理子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者・障害者の望ましい食生活のあり方についての基礎的な知識を習得し、実践のための理解を得る。</p> <p>また、食生活に関する様々な技能を実習を通して学び、高齢者や障害者の食生活支援能力を養う。</p>	
【テキスト】	
<p>【参考書】</p> <p>授業で紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活と食事</li> <li>2. 身体の機能と栄養（生体リズムと栄養、栄養素、消化吸収）</li> <li>3. 高齢者・障害者と栄養（加齢・障害と食生活のあり方、栄養所要量）</li> <li>4. 食生活と健康（生活習慣病、病態時の栄養）</li> <li>5. 食品の成分と保存、管理、食品衛生</li> <li>6. 調理（献立作成、調理）</li> <li>7. 高齢者・障害者の食生活と調理法、食器</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート、平常点</p>	

【授業科目】 介護概論	【担当者】 大槻恵子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者・障害者の生活の維持・向上をはかり、快適な生活を過ごすことが出来るように介護の理論と方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の介護と福祉：介護の社会化</li> <li>2. 介護の目的・機能・専門性</li> <li>3. 介護の対象理解と介護の原則</li> <li>4. 介護における人権保障と職業倫理</li> <li>5. 介護における援助関係</li> <li>6. 介護におけるコミュニケーション</li> <li>7. 生活者としての自立支援と介護</li> <li>8. 介護技術の基本：生活場面における介護</li> <li>9. 介護の活動領域：在宅介護、施設介護</li> <li>10. 介護・看護・医療・保健の連携</li> <li>11. 介護過程とケア・マネジメント</li> <li>12. 介護と死：終末期の介護</li> <li>13. 介護者の健康管理と労働安全</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート 平常点</p>	



【授業科目】 介護技術	【担当者】 大槻恵子・本田直子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者や障害者がある人らしく快適に生活し、さらに生活の可能性を拓げるための援助である介護の技法を習得する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護を必要とする人々の生活を理解する。</li> <li>2. 日常生活援助の介護技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 観察</li> <li>② 居住環境の整備</li> <li>③ コミュニケーション</li> <li>④ 食事・排泄・清潔・衣服の選択と着脱</li> <li>⑤ 社会生活の維持拡大：安楽な体位、移動の動作</li> <li>⑥ 医療行為と介護</li> <li>⑦ 救急時の介護</li> </ol> </li> <li>3. 家族支援のための介護技術</li> <li>4. 福祉機器の利用法</li> <li>5. 介護と記録</li> <li>6. 介護過程</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>試験      レポート      平常点</p>	

【授業科目】 形態別介護技術（肢体不自由・内部障害）	【担当者】 大槻恵子・嶋田陽子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>身体障害（肢体不自由・内部障害）に関する知識を学び、障害の特性とそれによって起こる生活条件に対応した介護技術を習得する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>VTR・参考図書・資料を活用し、身体障害（肢体不自由・内部障害）について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害の概念・障害の形態・障害者介護のあり方を学ぶ。</li> <li>2. 身体障害をもたらす原因疾患について、基礎知識を学び介護の方法を習得する。 (脳・神経系疾患、骨関節疾患、内部障害、難病の特徴と介護の方法)</li> <li>3. 障害を持つ人々の心理や行動特徴を理解し、障害に応じた生活支援の方法を学ぶ。</li> <li>4. 介護に必要な生活用具・福祉機器の知識と使用方法を習得する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>試験      レポート      平常点</p>	

【授業科目】 形態別介護技術（老人）	【担当者】 大槻恵子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者介護の基本理念と介護方法の基礎を理解する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>1、高齢者に関する書籍・文献・新聞や雑誌の記事・資料を、各自の興味にしたがって探索する。</p> <p>その結果を紹介し、自分の見解を発表、討論する。</p> <p>2、高齢者に関する課題や問題を整理し、分野別のグループをつくり、研究的手法で学習を深める。</p> <p>3、学習の結果を、グループ発表する。</p> <p>4、各自が、1から3の過程で学んだことを整理し、テーマを定めてレポートにまとめる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート 平常点</p>	

【授業科目】 形態別介護技術	【担当者】 池末 亨
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>精神障害者が地域生活を進める上で必要な福祉的援助のあり方について検討する。特に1999年5月精神保健福祉法で法定事業になったホームヘルパー派遣制度の意義と課題について詳しく検討する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>精神障害者ホームヘルパー研修テキスト（精神障害者社会復帰促進センター）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、精神病に対する治療とは別の、精神障害に対する福祉的援助の意義</li> <li>2、精神障害者に対する地域生活支援施策の概要</li> <li>3、精神障害者共同作業所の歴史的役割</li> <li>4、1999年5月精神保健福祉法改正と市町村の役割</li> <li>5、精神障害者ホームヘルパー派遣制度の意義と課題</li> <li>6、精神障害者ホームヘルプサービスの実際</li> <li>7、ホームヘルプサービスを進める際の医療保健関係者との連携</li> <li>8、まとめ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>8回目（最終回）の講義の後半でテストを行う。</p>	

【授業科目】 形態別介護技術	【担当者】 貞廣邦彦
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 聴覚障害に関する医学的知識を理解する。</li> <li>2 聴覚障害者の生活や心理を理解した適切な介護法を考える。</li> <li>3 残存感覚機能の活用法および音声言語に代わるコミュニケーション方法を習得する。</li> <li>4 福祉器具や用具についての知識と使用法を習得する。</li> <li>5 聴覚障害に他の障害が加わった重複障害者の介護について考える。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>「手にことばを（初級）」東京都聴覚障害者連盟発行</p>	
<p>【参考書】</p> <p>「わたしたちの手話（1）」全日本ろうあ連盟発行</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 聴覚障害の原因・種類・程度と残存感覚機能が生活へ及ぼす影響</li> <li>2 聴覚障害者のコミュニケーション方法と介護の留意点</li> <li>3 残存感覚機能を活用するための器具の利用法</li> <li>4 聴覚障害者の情報と福祉機器の種類</li> <li>5 重複障害者への対応と介護</li> <li>6 手話の基礎的知識と指文字</li> <li>7 生活場面での手話表現</li> <li>8 会話場面での手話表現</li> <li>9 聴覚障害者との手話演習</li> <li>10 手話の特徴と手話通訳の基礎的演習</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業の出席状態と筆記試験によって評価する。</p>	

【授業科目】 形態別介護技術	【担当者】 直居鉄
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>視覚障害といってもその程度、原因、障害発生時期および今後の進行予測など、個人によってそれぞれ固有な状態である。特に最近は、高齢で失明する人が増加しており、生活の状況はきわめて多様である。一人一人の状態を正しく認識し、適切な介護をするための知識技能を習得する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>視覚障害者の介護技術、点字の本</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>視覚障害に関係する医学的知識、残存感覚の活用など視覚障害を理解するための基礎的な知識を学習する。</p> <p>視覚障害者（児）の生活について厚生省による実態調査を始め、各種の資料により、教育、職業、生活の現状について学習する。</p> <p>介護技術としては、歩行・移動の介護と、コミュニケーションの介護として、点字の読み書き、普通文字の音訳（読み）と代筆の基本的な知識技能を学習する。</p> <p>日常生活において視覚障害による不自由を正しく理解し、適切な介護ができるような心構えを養う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、レポート</p>	

【授業科目】 医学一般	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1年 前期	
<b>【授業目標】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の解剖・生理学を base に、加齢現象や臓器相関性の理解を図る。</li> <li>2. aging による種々の障害や疾患の理解をはかり、予防法の習得をめざす。</li> <li>3. 医療・介護の現場で理解しておいた方が better な知識の習得。</li> <li>4. 健康増進および疾患予防に関する知識の理解。</li> </ol>	
<b>【テキスト】</b> 介護福祉士養成口座10 医学一般 (中央 法規)	
<hr/> <b>【参考書】</b> からだの構造と機能 A. シェフラー ,S. シュミット著 (西村書店) ベッドサイドマニュアル 成人内科看護 (中央法規) 看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者 (中央法規)	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.1) 解剖学・生理学を中心に人体全体の仕組みを把握する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 加齢による老化の理解。一定義・特徴・学説・老化に影響する因子など</li> <li>3) 老年病の特徴の理解。</li> </ol> </li> <li>2. 老化と各種疾患 (解剖学・生理学を review しながら)             <ol style="list-style-type: none"> <li>A) 脳、神経系；高齢者脳血管障害の特徴</li> <li>B) 心、血管系；高血圧、虚血性心疾患（無症候性心筋虚血を含む）、不整脈、心不全</li> <li>C) 呼吸器系；肺炎、肺結核、慢性閉塞性肺疾患、肺癌</li> <li>D) 消化器系；高齢者の急性腹症、消化性潰瘍、消化管悪性腫瘍</li> <li>E) 内分泌、代謝系；高脂血症、高齢者糖尿病</li> <li>F) 骨、関節系；骨粗鬆症、変形性関節症などの疾患</li> <li>G) 腎、泌尿、生殖器系；腎不全、前立腺肥大症と前立腺癌、子宮脱等</li> <li>H) 血液系；高齢者の貧血</li> <li>I) その他の器官系 (老年各診療科目の対象となる疾病、障害について)</li> </ol> </li> <li>3. 1) カルテ (医療情報提書) の読み方             <ol style="list-style-type: none"> <li>2) “薬 (処方箋)” の中身の調べ方と重要な薬の副作用の理解</li> <li>3) 主な検査データの読み方 (血算・生化学・尿など)</li> <li>4) 入所者の全身状態の把握の仕方</li> <li>5) 入所者の緊急状態の把握の仕方と救急処置</li> <li>6) 頻用される医療機器の理解——心電図・吸引機・血圧計・CT・MRI・胸部・腹部 X-P・エコー・アンギオなど</li> </ol> </li> <li>4. 1) 健康の概念             <ol style="list-style-type: none"> <li>2) わが国の健康水準と健康増進施策</li> <li>3) 健康増進と生活習慣病などの疾病予防法                 <p style="margin-left: 20px;">—食生活と栄養・運動・喫煙・アルコール・休養とストレス—</p> </li> </ol> </li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 出席点と筆記試験	

【授業科目】 レクリエーション活動援助法

【担当者】 園田碩哉、高橋紀子

【開講期】 1年 前期

【授業目標】

介護サービスの究極の目的は、援助の対象となる人々がいきいきと生きがいを感じながら生きることができるように、生活全体を活性化することである。その中でレクリエーション（日常的な楽しさづくり）援助の果たす役割は大きい。この授業では、これからの社会福祉サービスにおけるレクリエーションの意味と価値を明らかにするとともに、レクリエーション活動援助の基本的な方法と援助者の果たすべき役割について体験学習を織り交ぜながら追求する。

【テキスト】

垣内芳子、園田碩哉他編著「レクリエーション援助法」建帛社

【参考書】

授 業 計 画

- 1) 出会いの時間・・・よりよく知り合うために  
人と人との出会いの喜びを体験し、コミュニケーションを深めるレクリエーションの実際を体験する。
- 2) レクリエーションとは何か  
レクリエーションのイメージの点検から始めて、レクリエーションという概念がなぜ生まれてきたか、現代の社会でレクリエーションの持つ積極的な意義を検討する。
- 3) レクリエーション支援の必要  
これからの福祉サービスのあり方を考え、その中でレクリエーション活動への援助が果たすべき役割を考える。福祉現場でのレクリエーションを紹介するビデオ視聴を素材に、小グループでの論議を行う。
- 4) レクリエーション援助のプロセス (2回)  
レクリエーション援助はアセスメント－企画－実施－評価のプロセスを踏んで行われることが望まれる。その進め方を具体的な事例に即して検討する。
- 5) レクリエーション援助者の資質 (2回)  
レクリエーション援助者が身につけるべきコミュニケーション技術や人間関係能力について、グループ・エンカウンターの手法を使って体験学習する。
- 6) ケーススタディ(1)・・・高齢者の場合 (2回)  
高齢者のレクリエーションの事例を取り上げ、それが持つ可能性、援助を行う上での問題点、高齢者にふさわしいレクリエーションの素材研究を行う。
- 7) ケーススタディ(2)・・・障害者の場合 (2回)  
障害者のレクリエーションの問題を、障害者の生活を豊かにするノーマライゼーションの一環という視点から取り上げ、バリアフリーの実現の方策を検討する。
- 8) 生活を楽しむ・・・ライフスタイルとレクリエーション  
レクリエーションは生活の中に多様な楽しみを作りだす総合的なプログラムであるという見地から、レクリエーションが根を下ろした生活のスタイルを考える。
- 9) レクリエーション・パーティ実習  
遊びの精神を生かし、一人一人が主人公であるような楽しいパーティを企画し、みんなで役割を分担して実施し、全体の「まとめ」とする。

【評価方法】

授業時に取り組むワークシートの内容と、最後の総括レポートの出来ばえを総合して評価する。



【授業科目】 実習指導	【担当者】 本田直子・嶋田陽子
【開講期】 1年 前期・後期	
<b>【授業目標】</b> 1 介護実習の重要性について理解する 2 介護実習を通じて学校内で学んだ知識・技術・態度を具体的かつ実践的に理解する 3 介護過程の展開について学び、実習終了後に事例としてまとめる 4 プロセス・レコードの検討、事例検討会を通して様々な角度から一人の人をとらえる方法を学ぶ	
<b>【テキスト】</b> 最新介護福祉全書17 「介護福祉実習指導」 メヂカルフレンド社	
<b>【参考書】</b> 最新介護福祉全書別巻2 「介護過程」 メヂカルフレンド社	
<b>授 業 計 画</b>	
1 施設介護実習・訪問介護実習 1) 実習の目的について理解する 2) 施設介護実習準備として、実習施設の機能と利用者について理解する 訪問介護実習準備として、地域・家族・利用者について理解する 3) 実習記録の書き方について学ぶ 実習記録、プロセス・レコードの書き方、及び活用のしかたについて学ぶ 4) 実習後のグループワークにより、お互いの経験を交流し、今後の課題を明らかにする  2 介護過程の展開について学び、実習終了後に事例としてまとめる 具体的な事例を通して、自己の介護を客観的に見つめる視点を持つ  3 プロセス・レコードの検討、事例検討会を通して様々な角度から一人の人をとらえる方法を学ぶ 他者の意見を聞き、検討する中でより良い介護について考える機会とする	
<b>【評価方法】</b>  実習記録      ケーススタディー      平常点	

【授業科目】 介護実習	【担当者】大槻恵子・本田直子・嶋田陽子
【開講期】 1年 前期・後期	
<b>【授業目標】</b> 1. 施設・地域で生活している人々の「暮らし」を理解し、施設設備や施設職員のあり方必要な介護サービスについて考える。 2. 学校で学んだ理論・技術を基礎として、利用者の状況に応じた介護ができる。 3. 介護福祉士としての介護観を養う。	
【テキスト】	
<b>【参考書】</b> <p style="text-align: center;">授業で紹介する</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>介護実習は、45日間を3期に分けて行う。</p> <p>1 施設介護実習</p> <p>1) 第1段階（2週間） 5月22日（月）～6月 9日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションが比較的とりやすい利用者との人間的な関わりを深め、利用者のニーズは何かを理解する</li> <li>・初歩的な日常生活援助を体験する</li> <li>・施設職員の一般的な役割について学ぶ</li> </ul> <p>2) 第2段階（2週間） 9月 4日（月）～9月15日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者との関わりを深め利用者を生活歴を含めて、全人的に理解する</li> <li>・障害レベルに応じて求められる介護技術の適正な使い方について学ぶ</li> <li>・他職種の役割について理解する</li> </ul> <p>3) 第3段階（4週間） 11月 6日（月）～12月 1日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設運営のプログラムに参加し、サービス全般について理解する</li> <li>・個別の利用者を担当し、介護過程の展開について学ぶ</li> </ul> <p>2 訪問介護実習（1週間）</p> <p>老人居宅等事業の訪問介護員、入浴サービス及び在宅介護支援センター（訪問）の介護職員との同行訪問を行う</p> <p>時期については可能な限り第1段階に実施し、生活者としての利用者の理解を深める</p> <p>5月22日（月）～5月26日（金） 6月 5日（月）～6月 9日（金）  9月18日（月）～9月22日（金）</p>	
<b>【評価方法】</b> <p style="text-align: center;">実習記録      レポート      平常点</p>	

【授業科目】	修了研究演習	【担当者】	専任教員
【開講期】 前期・後期			
<p>【授業目標】</p> <p>学生各人が、老人福祉、障害者福祉等に関する関心に基づいて施設福祉・在宅福祉・地域福祉関連の研究テーマを設定し、専任教員の指導のもとに個別または小グループで文献購読、資料の収集、分析、観察などの方法により年間を通して研究を進めます。</p> <p>なお、学年末には研究の成果を「修了研究レポート」としてまとめ、修了研究発表会で口頭発表を行います。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>担当専任教員が各々の専門性に合わせ、大まかな研究グループテーマを提示し、それにあわせ学生が研究グループを形成し、週1回の修了研究演習授業を展開します。</p> <p>各学生は指導教員の援助のもとで研究テーマを設定し、年間を通し研究を繰り広げます。研究テーマの選定は7月の修了研究中間報告会を目安に煮つめ、研究を重ねていきます。</p> <p>【7月8日（土）修了研究中間報告会】</p> <p>学生は、年間を通して研究してきた修了研究を「修了研究レポート」としてまとめ、2月下旬の修了研究発表会において発表します。</p>			
<p>【評価】</p> <p>研究の過程の積極性と努力および修了研究レポートによって評価します。</p>			

【授業科目】 社会福祉制度政策論	【担当者】 鍾 家新																														
【開講期】 1年 前期																															
<p>【授業目標】</p> <p>現代日本における社会福祉制度政策の特徴と問題点は何か。二十一世紀の日本における社会福祉制度政策はいかに改革されるのか。本講義は、歴史の視点と国際比較の方法によって、前述の問題を探究する。本講義は①現代日本における社会福祉制度政策の成立・発展過程、②日本の社会福祉諸制度の現状と問題点、③日本型福祉国家の特徴とゆくえ、についての理解を深めることを目標とする。本講義の受講によって、学生たちは日本の社会福祉制度政策を複眼的に見るための知識と能力を身につける。</p>																															
<p>【テキスト】</p> <p>随時、プリントを配布する。</p>																															
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>講義のなかで随時紹介する</p>																															
<p>授 業 計 画</p>																															
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 年金保険制度の形成過程 (I)</td> <td style="text-align: right;">(第1回)</td> </tr> <tr> <td>2. 年金保険制度の形成過程 (II)</td> <td style="text-align: right;">(第2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 年金保険制度の現状</td> <td style="text-align: right;">(第3回)</td> </tr> <tr> <td>4. 年金保険制度の課題</td> <td style="text-align: right;">(第4回)</td> </tr> <tr> <td>5. 医療保険制度の形成過程 (I)</td> <td style="text-align: right;">(第5回)</td> </tr> <tr> <td>6. 医療保険制度の形成過程 (II)</td> <td style="text-align: right;">(第6回)</td> </tr> <tr> <td>7. 医療保険制度の現状</td> <td style="text-align: right;">(第7回)</td> </tr> <tr> <td>8. 医療保険の課題</td> <td style="text-align: right;">(第8回)</td> </tr> <tr> <td>9. 生活保護制度の現状と問題点 (I)</td> <td style="text-align: right;">(第9回)</td> </tr> <tr> <td>10. 生活保護制度の形成過程 (I)</td> <td style="text-align: right;">(第10回)</td> </tr> <tr> <td>11. 生活保護制度の形成過程 (II)</td> <td style="text-align: right;">(第11回)</td> </tr> <tr> <td>12. 介護保険の現状</td> <td style="text-align: right;">(第12回)</td> </tr> <tr> <td>12. 介護保険の問題点</td> <td style="text-align: right;">(第13回)</td> </tr> <tr> <td>14. 日本の社会福祉の政策主体 (=厚生省) の形成と現状</td> <td style="text-align: right;">(第14回)</td> </tr> <tr> <td>15. 国際比較で見る日本型福祉国家の諸特徴</td> <td style="text-align: right;">(第15回)</td> </tr> </table>		1. 年金保険制度の形成過程 (I)	(第1回)	2. 年金保険制度の形成過程 (II)	(第2回)	3. 年金保険制度の現状	(第3回)	4. 年金保険制度の課題	(第4回)	5. 医療保険制度の形成過程 (I)	(第5回)	6. 医療保険制度の形成過程 (II)	(第6回)	7. 医療保険制度の現状	(第7回)	8. 医療保険の課題	(第8回)	9. 生活保護制度の現状と問題点 (I)	(第9回)	10. 生活保護制度の形成過程 (I)	(第10回)	11. 生活保護制度の形成過程 (II)	(第11回)	12. 介護保険の現状	(第12回)	12. 介護保険の問題点	(第13回)	14. 日本の社会福祉の政策主体 (=厚生省) の形成と現状	(第14回)	15. 国際比較で見る日本型福祉国家の諸特徴	(第15回)
1. 年金保険制度の形成過程 (I)	(第1回)																														
2. 年金保険制度の形成過程 (II)	(第2回)																														
3. 年金保険制度の現状	(第3回)																														
4. 年金保険制度の課題	(第4回)																														
5. 医療保険制度の形成過程 (I)	(第5回)																														
6. 医療保険制度の形成過程 (II)	(第6回)																														
7. 医療保険制度の現状	(第7回)																														
8. 医療保険の課題	(第8回)																														
9. 生活保護制度の現状と問題点 (I)	(第9回)																														
10. 生活保護制度の形成過程 (I)	(第10回)																														
11. 生活保護制度の形成過程 (II)	(第11回)																														
12. 介護保険の現状	(第12回)																														
12. 介護保険の問題点	(第13回)																														
14. 日本の社会福祉の政策主体 (=厚生省) の形成と現状	(第14回)																														
15. 国際比較で見る日本型福祉国家の諸特徴	(第15回)																														
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと出席状況。</p>																															

【授業科目】 障害福祉論	【担当者】 村田保太郎
【開講期】 1 年 後期（前半）	
<p>【授業目標】 障害者福祉の概要を把握し障害者の実態及び福祉の現状を理解する また、障害者に対する療育・相談、民間活動の現状について理解を深める</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>【障害児福祉論】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害者福祉の考え方</li> <li>2 障害の概念と障害者の実態</li> <li>3 障害者福祉政策のあらまし</li> <li>5 障害者福祉と介護福祉士</li> <li>6 障害者福祉の現状と課題</li> <li>7 障害者の生活と援助サービス</li> </ol> <p style="text-align: right;">（担当 村田保太郎）</p> <p>【障害者福祉論】</p> <p>障害者に関わる制度の概要を学ぶ。身体障害者、知的障害者、精神障害者の福祉サービス、さらに雇用や環境の面などの対策などについて理解する。講義は、学生報告やディスカッションを取り入れながら問題意識を深める形で進める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">学期末試験と小レポート</p>	

【授業科目】 障害福祉論	【担当者】 河東田博
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】          ノーマライゼーションを保障するためにはどうしたらよいか。障害福祉の今日的課題を明らかにした上で、ノーマライゼーションの具体化に向けてさまざまな実験を試みているスウェーデンの社会福祉に焦点をあて、その歴史的な努力の経緯や実態、課題について検討する。なぜ画期的な法制度が整えられ、脱施設化が可能になってきたのか、を当事者活動との関係の中で検証する。また、障害福祉の分野であまり言及されないセクシュアリティの問題についても取り上げる。</p>	
<p>【テキスト】          河東田博『国際福祉の今日的動向とハンディキャップーノーマライゼーションの保障と課題ー』1999年（自費出版）</p>	
<p>【参考書】          河東田博『スウェーデンの知的しょうがい者とノーマライゼーション』現代書館1998年（改訂版2刷）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>受講者とのコミュニケーションを大切にしながら授業を進めていきたい。なお、授業内容を少しでも理解してもらうために、随時OHP及びVTRなどの視聴覚機器を使用しながら授業を進めていく予定である。</p> <p>予定されている8回の授業計画は、次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害福祉の今日的課題Ⅰーノーマライゼーション</li> <li>2. 障害福祉の今日的課題ⅡーQuality of Life (QOL)</li> <li>3. 障害福祉の今日的課題Ⅲー自立生活</li> <li>4. スウェーデンにみるノーマライゼーション理念の具体化Ⅰ</li> <li>5. スウェーデンにみるノーマライゼーション理念の具体化Ⅱ</li> <li>6. スウェーデンにみるノーマライゼーション理念の具体化Ⅲ</li> <li>7. 北欧から学ぶ福祉の充実とセクシュアリティ</li> <li>8. 障害福祉の課題と展望ー政策決定への当事者参加・参画</li> </ol>	
<p>【評価方法】          毎回のミニレポートと試験の結果により総合的に判断する。</p>	

【授業科目】 社会福祉援助方法論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>介護福祉の実践にとって必要な社会福祉援助技術の意義と内容について理解を深めると共にその応用能力を向上させる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉援助技術と介護福祉士</li> <li>2. 社会福祉援助技術の基本的枠組み</li> <li>3. 社会福祉援助技術の理解       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個別援助技術（ケースワーク）の意義・機能・展開過程など</li> <li>(2) 集団援助技術（グループワーク）の意義・機能・展開過程など</li> <li>(3) 地域援助技術（コミュニティワークなど）の意義・機能・展開過程など</li> <li>(4) 関連援助技術（ケアマネジメント、ネットワーク、スーパービジョンなど）</li> </ol> </li> <li>4. 社会福祉援助技術における具体的手段       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 面接の構造と技法</li> <li>(2) 記録の書き方</li> <li>(3) 事例研究の方法</li> </ol> </li> <li>5. 事例研究</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と学期末レポートによる。</p>	







学籍番号・

氏名・

---

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830  
教務課042(346)5619